

ジョゼフ・アッカンの未刊行書簡

——日仏会館館長時代とシトロエン社中央アジア自動車遠征
(Croisière Jaune) の時代を中心に——

下 村 武

Résumé

Dans le présent article, nous nous proposons d'examiner les lettres inédites de Joseph Hackin conservées à la bibliothèque du Musée Guimet, afin de retracer à la fois son activité au Japon et son implication dans l'expédition automobile de Citroën en Asie centrale, connue sous le nom de *Croisière Jaune*. Archéologue spécialiste de l'Afghanistan, ancien conservateur puis directeur du Musée Guimet, Hackin fut également le troisième directeur de la Maison franco-japonaise, fondée notamment par Paul Claudel et Eiichi Shibusawa.

À la suite d'une enquête menée en 2025 au Musée Guimet, nous avons pu identifier un vaste ensemble de correspondances demeurées jusqu'à présent non classées : lettres officielles, échanges privés, télégrammes, brouillons et divers documents liés principalement à la *Croisière Jaune*. Cet ensemble d'archives met en évidence les réseaux intellectuels, scientifiques et diplomatiques dans lesquels Hackin évoluait entre la France, le Japon, la Chine, l'Afghanistan et l'Indochine. Ces documents permettent également de mieux saisir ses relations avec plusieurs orientalistes, archéologues et acteurs culturels majeurs de l'époque, parmi lesquels Paul Pelliot, Sylvain Lévy et René Grousset, ainsi qu'avec différents membres de la *Croisière Jaune*, notamment Louis Audouin-Dubreuil, Victor Point et André Citroën.

Cette étude entend également mettre en lumière l'importance des échanges intellectuels franco-japonais durant l'entre-deux-guerres. Les lettres témoignent des liens entretenus par Hackin avec plusieurs universitaires japonais et permettent d'éclairer le rôle joué par la Maison franco-japonaise ainsi que par l'Institut franco-japonais du Kansai dans les échanges académiques et culturels de

cette période.

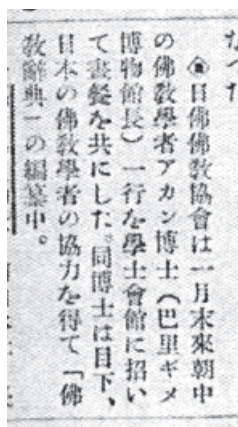
En conclusion, ces documents apparaissent comme des sources primaires de première importance pour la compréhension des activités scientifiques et diplomatiques de Hackin, de l'histoire de la *Croisière Jaune* ainsi que des réseaux culturels franco-japonais des années 1930. Cette étude souligne la nécessité d'une analyse plus approfondie de ces archives inédites, qui feront l'objet de recherches ultérieures.

mots clés: Croisière Jaune, André Citroën, Musée Guimet, Joseph Hackin, Maison franco-japonaise à Tokyo

0. はじめに

2025年に創刊100周年を迎えた白水社の雑誌『ふらんす』には、現在でもフランス文学、文化関連の新刊書籍やイベント等の告知を行う「さえら」のページがある。かつては「さえら集」として「個人の動静、出版、事業等に亘つてなるべき広い範囲の消息」を伝え、特に「仏文関係者の教育機関への就職、離職、転居、訃報や、さまざまな催しや企画、さらには翻訳の進捗まで報告¹⁾」されていた。

その雑誌『ふらんす』1931年(昭6)3月号の「さえら集」の中に次のように記述がある。「日佛佛教協會は一月末來朝中の佛教學者アカン博士(巴里ギメ博物館長)一行を學士會館に招いて晝餐を共にした。同博士は目下、日本の佛教學者の協力を得て「佛教辭典」の編纂中。²⁾」ここで語られている「佛教學者アカン博士」とは、1931年から32年に行われたシトロエン社の中央アジア自動車遠征(通称 *Croisière Jaune*)に参加したジョセフ・アッカン



雑誌『ふらんす』
1931年(昭6)3月号

Joseph Hackin (1886-1941) のことであり、考古学者としてギメ東洋美術館学芸員、のちに館長まで務めた人物である。アッカン は考古学者としての顔だけでなく、日本との関係で言えば当時の駐日フランス大使ポール・クロードと渋沢栄一が1924年に設立した日仏会館の第三代の館長としての顔もあわせ持っている。ちなみに編纂中の「佛教辭典」とは、日本と中国の文献資料によるフランス語の仏教術語解説辞典『法寶義林』を指すのだろう³⁾。

筆者は、*Croisière Jaune* に関する愛知大学人文社会学研究所の共同研究プロジェクトの一環で、2024年と2025年にフランスで資料の撮影と目録化を行うことができた。特に2025年に行ったギメ東洋美術館図書室での調査では、アッカンが保存していた書簡や手記を資料として収集し、*Croisière Jaune* 関連の資料を多数

確認することができた。これらの資料や書簡はこれまで Croisière Jaune 関連の研究ではほとんど言及されてこなかったが、Croisière Jaune に参加したルイ・オドゥアン＝デュブリユ Louis Audouin-Dubreuil やヴィクトール・ポワン Victor Point, さらにアンドレ・シトロエン André Citroën 本人と交わした公的・私的な書簡および手書きの手記などは Croisière Jaune の背景を明らかにする貴重な一次資料群と言える。本稿では日本でのアッカンの足跡をたどるとともに、これらの書簡や資料の一部を明らかにすることを目的にしている。

1. ジョゼフ・アッカンについて⁴⁾

今日のフランスでは、アッカンは考古学者としてだけでなく第二次世界大戦のレジスタンスの闘士としての文脈で語られることも多いようだ。フランス占領後に自由フランスの活動に参加していたアッカンは1941年に妻のレアとともに乗船した船がドイツ軍潜水艦に沈没させられ死亡している。今日の日本においてはどうか。考古学や美術史以外の文脈で言及されることはそれほど多くはないのではないだろうか。その状況を藤原貞朗は以下のように説明している。

近年、日仏文化交流の歴史研究は充実し、交流に貢献した人々の姿が次々と浮き彫りにされている。しかし、拙著が取り上げた大戦間期と戦中の東洋学者の日仏交流はほとんど注目されていない。その理由はまず、従来の研究の大半が19世紀半ばから後半の、すなわち日仏交流黎明期に焦点を当てているからである。引き継ぐ第二・第三の交流については、時代が近すぎることもあり、研究はこれからという段階である。さらに、東洋学者はいうまでもなく、そもそも学者の交流史が研究対象となつてこなかった。たいていは芸術家や作家、財界人に注目した研究である。学者を研究対象とする学者はまずいないからである。日仏交流史研究が盛んだといっても、20世紀の、しかも東洋学者の交流史にスポットライトが当たることはなかったわけである。⁵⁾

本稿は日仏文化交流の観点からではなく、Croisière Jaune の文脈からアッカンを捉え直すことを目指すが、まずはアッカンの半生を振り返ることから始めてみよう。

1886年にルクセンブルクで生まれたアッカンは、パリの Sciences Po の前身である École libre des sciences politiques (ELSP) で学業を修め、1907年にエミール・ギメの秘書となった後、13年にはギメ東洋博物館の副学芸員となる。23年に正学芸員となった後には、アフガニスタンの調査団の発掘に参加し、パーミヤンやベグラムの調査で成果を残し、考古学者としての地歩を築いていく。30年には「アフガニスタンの発掘に余念がないアッカンに転機

が訪れ⁶⁾」、上述したように24年に当時の駐日フランス大使ポール・クローデルによって設立された日仏会館の館長に任命され日本に滞在することになったのである。フランス文化の東洋の窓口としてフランス極東学院がベトナム・ハノイに1901年に設立されて以降、フランスから日本に研究者を送り続けてきたが⁷⁾、24年には東京にも日仏会館が設立される。設立当初は日本におけるフランス語やフランス文化の交流が目的というよりも、ハノイの極東学院がインドシナ考古調査団をその前身としているように、日仏会館もフランスにとっては「フランス考古学の東洋研究の足場であり、東洋すなわち中国の研究の基地⁸⁾」としての役割を担っていた。その証拠に日仏会館初代館長にはフランスの東洋学者シルヴァン・レヴィイが就任している。その意味ではアフガニスタン考古学の専門家であるアッカンの日仏会館の館長に任命されるのも、こういう事情を考慮すればむしろ必然の成り行きであったと推測できる。

2. ギメ東洋美術館に所蔵されたアッカンの書簡について

2025年夏のギメ東洋美術館図書室での調査で、アッカンの書簡を資料として収集することができた。今回の調査では *Croisière Jaune* 関連の書簡、とりわけ当時のフランス外務省や在日フランス大使館との書簡やアンドレ・シトロエン直筆の書簡についても確認することができた。ギメ東洋美術館図書室には四つの段ボールの箱の中に未分類のままアッカンの保管していた書簡がそのまま残され、蔵書目録としてカタログ化もされていない。資料の中には日本滞在中のものと思われる書簡も数点残され、アッカンの日本での生活を垣間見ることができる。2025年夏のギメ東洋美術館図書室での調査は、愛知大学国際コミュニケーション学部のピータース先生と共同で実施し⁹⁾、4つの段ボールのうちピータース先生は1番目と2番目の箱を、筆者は3番目と4番目の箱を分担した。4の箱の背には「Hackin/courrier/1930-1932」と手書きで記されている。以下、アッカンに関する3と4の箱の書簡および資料のリストである。

A

- A-1 書簡 1929年12月5日 差出人 フランス外務省 2ページ（タイプ打ち、手書きの書き込み有り）
- A-2 書簡 1931年3月10日 差出人 Asiatic Society of Japan 会計係 N.K. Roscoe 1ページ（タイプ打ち、英語）
- A-3 請求書 1931年3月10日 Asiatic Society of Japan 会計係 N.K. Roscoe 1ページ（終身会員の会費支払通知、100円、A-2に同封）

- A-4 請求書 1931年3月10日 Asiatic Society of Japan 会計係 N.K. Roscoe 1 ページ (年会費支払通知, 10円, A-2に同封)
- A-5 書簡 1932年7月6日Tokyo アッカンから駐日フランス大使へ 2 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo の便箋)
- A-6 電報 1932年4月4日 差出人 Audouin-Dubreuil 1 ページ (サイゴンからの電報)
- A-7 書簡 1932年4月10日 差出人 Audouin-Dubreuil 4 ページ (手書き)
- A-8 書簡 1932年6月15日Tokyo 宛先 Audouin-Dubreuil への書簡 4 ページ (手書き)
- A-9 書簡 1932年6月22日 宛先 Audouin-Dubreuil 4 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋, A-11の下書き)
- A-10 書簡 1932年6月22日 宛先 Audouin-Dubreuil 2 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo の便箋, A-11の下書き)
- A-11 書簡 1932年6月22日 宛先 Audouin-Dubreuil 2 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo の便箋, A-10の下書き)
- A-12 書簡 1932年6月6日 差出人 M. Arai (Faculté de médecine de Tokyo) 1 ページ (手書き, フランス語)

B

- B-1 書簡 1930年12月10日 差出人 Louis Blaringhem 4 ページ (手書き, Station de Recherches du Collège de France à Meudon の便箋)
- B-2 書簡 1931年1月19日 差出人 Albert Bodard 1 ページ (手書き, Légation de France en Afghanistan の便箋) [1931-34年当時の駐アフガニスタン仏大使]
- B-3 書簡 1930年?月24日 差出人 Bacquet 4 ページ (手書き)
- B-4 書簡 1932年1月25日 差出人 Bacquet 3 ページ (手書き)
- B-5 書簡 ?年9月1日Nojiri 差出人 Georges Bonneau 4 ページ (手書き)
- B-6 電報 ?年7月17日Kôbe 差出人 Georges Bonneau 10ページ (手書き)
- B-7 資料 « L'EXPRESSION POÉTIQUE DANS LE FOLK-LORE JAPONAIS (Volume I, II et III) » 1 ページ (Georges Bonneau の著作の表紙のコピー, B-6に同封か)
- B-8 資料 « L'EXPRESSION POÉTIQUE DANS LE FOLK-LORE JAPONAIS Volume Premier Poètes et paysans : Le Vingt-Six syllabes de Formation Savante » 1 ページ (Georges Bonneau の著作の表紙のコピー, 手書きの朱書きあり, B-6に同封か)
- B-9 資料 « L'EXPRESSION POÉTIQUE DANS LE FOLK-LORE JAPONAIS Volume Premier, Poètes et Paysans : Le Vingt-Six syllabes de Formation Savante » 1 ページ (Georges Bonneau の著作の表紙のコピー, 朱書きなし, B-6に同封か)

- B-10 書簡 ?年7月19日 差出人 Georges Bonneau 7 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋)
- B-11 書簡 ?年6月19日 差出人 Georges Bonneau 3 ページ (手書き)
- B-12 資料 ARTHUR WALEY GENJI MONOGATARI 1 ページ (タイプ打ち, 書名リスト)
- B-13 電報 1932年5月4日 差出人 Georges Bonneau 1 ページ (神田局スタンプ)
- B-14 電報 1932年5月6日 差出人 Georges Bonneau 1 ページ (神田局スタンプ)

C

- C-1 書簡 1931年1月6日Hanoï 差出人 Cædès 4 ページ (École française d'Extrême-Orient の便箋)
- C-2 書簡 1932年5月10日 宛先不明 1 ページ (タイプ打ち, Croisière Jaune 関連, Maison Franco-Japonaise Tokyo の便箋)
- C-3 書簡 1932年6月6日Tokyo André Citroën 宛 4 ページ (手書き, 下書き)
- C-4 書簡 1932年6月6日Tokyo André Citroën 宛 3 ページ (タイプ打ち, C-3の清書)
- C-5 書簡 1932年7月1日Paris 差出人 André Citroën 3 ページ (タイプ打ち, Expédition Citroën Centre-Asie の便箋)
- C-6 資料 « Caravane traversant le plateau des Pamirs d'été » (Traduction d'un article paru dans le Journal de l'Université impériale de Tokyo, 16 mai 1932) (Croisière Jaune 関連の記事のフランス語訳, 掲載誌不明)
- C-7 書簡 1932年4月19日Tokyo 差出人 Cotte 2 ページ (手書き, ATHÉNÉE FRANÇAIS DE TOKYO の便箋)
- C-8 書簡 1932年6月20日Tokyo 差出人 Cotte 3 ページ (手書き, ATHÉNÉE FRANÇAIS DE TOKYO の便箋)
- C-9 書簡 1932年6月22日Tokyo 差出人 Cotte 3 ページ (手書き)
- C-10 書簡 1932年6月8日 差出人 Madame Chemet 2 ページ (手書き, The Imperial Hotel of Tokyo の便箋)
- C-11 資料 Baron Furuichi (古市公威) 他 2 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋, 名前リスト)
- C-12 資料 Monsieur Alsot 他 1 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋, 名前リスト C-11の続き?)
- C-13 資料 人名不明 1 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋, 名前リスト C-11の続き?)

C-14 資料 «“Deacon” Memorandum» 1 ページ (手書き, アルファベット順の書簡リスト?)

DEF

- DEF-1 資料 (請求書) 昭和7年(1932)6月25日 差出人 片岡富太郎商店 請求先 相田様宛 1 ページ (6月11の保土ヶ谷の別荘工事代金と思われる)
- DEF-2 資料 (請求書) 昭和7年(1932)6月24日 差出人 吉田由之助 請求先 上様宛 1 ページ (筆書き, 同工事代金)
- DEF-3 資料 (請求書) 1932年6月24日 差出人 Jules Darbier 1 ページ (DEF-1 と DEF-2 の合計金額)
- DEF-4 資料 (請求書) 1932年6月27日 差出人 Jules Darbier 1 ページ (DEF-3 の日付ちがい)
- DEF-5 資料 (領収書) 1932年6月27日 差出人 Jules Darbier 1 ページ (DEF-4 に対する領収書, 日本政府三銭の収入印紙貼付)
- DEF-6 書簡 1932年4月10日 差出人 Dr Delastre 1 ページ (手書き, Messageries Maritimes 便箋, Felix Roussel 号上で書かれたもの)
- DEF-7 書簡 1932年10月7日Paris 差出人 Espezel 4 ページ (タイプ打ち, Gazette des Beaux-Arts の便箋)
- DEF-8 書簡 1931年1月12日 差出人 Finot 2 ページ (手書き)
- DEF-9 書簡 1931年12月20日 差出人 Filzmannce(?) 1 ページ (タイプ打ち, 英語)
- DEF-10 書簡 1930年10月25日 差出人 Foucher 5 ページ (手書き)
- DEF-11 書簡 1932年6月27日 差出人 Foucher 2 ページ (手書き)
- DEF-12 書簡 1932年6月23日 差出人 Le Fèvre 4 ページ (手書き)
- DEF-13 書簡 1932年6月27日 宛先 Baron Furuichi [古市公威] 2 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋, タイプ原稿の下書き?)
- DEF-14 書簡 1932年6月10日 宛先フランス大使 3 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo 小型便箋, タイプ原稿の下書き?)

G

- G-1 書簡 1932年7月25日 差出人 Damien de Martel(?) 1 ページ (タイプ打ち, 在日仏大使館便箋)
- G-2 書簡 1930年11月29日Kaboul 差出人 Girard 8 ページ (手書き)
- G-3 書簡 1930年12月16日Kaboul 差出人 Girard 13 ページ (手書き)

- G-4 書簡 1931年1月31日 差出人 Girard 4 ページ (手書き)
- G-5 書簡 1932年2月16日 差出人 Girard 8 ページ (手書き)
- G-6 書簡 1932年5月14日 差出人 Girard 8 ページ (手書き)
- G-7 書簡 1932年6月20日 差出人 Girard 4 ページ (手書き)
- G-8 書簡 1930年12月17日 差出人 René Grousset 6 ページ (手書き, Musées Nationaux 便箋)
- G-9 書簡 1932年1月22日Paris 差出人 René Grousset 2 ページ (手書き, Ministère de l'Instruction publique et des Beaux-Arts 便箋)
- G-10 書簡 1932年4月9日 差出人 René Grousset 4 ページ (手書き)
- G-11 書簡 1932年6月6日 差出人 René Grousset 4 ページ (手書き, Musées Nationaux 便箋)
- G-12 書簡 1932年6月21日 宛先 René Grousset 3 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋, n°2の表記あり)
- G-13 書簡 1932年6月27日 宛先 René Grousset 6 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo 小型便箋, n°3の表記あり)
- G-14 書簡 1932年6月27日 宛先 René Grousset 4 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋, n°3の表記あり, G-13の清書)
- G-15 書簡 1932年7月15日 宛先 René Grousset 3 ページ (タイプ打ち, n°4の表記あり)
- G-16 書簡 1932年7月25日 宛先 René Grousset 7 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo 小型便箋, n°5の表記あり)
- G-17 書簡 1932年7月25日 宛先 René Grousset 4 ページ (タイプ打ち, n°5の表記あり, G-16の清書)
- G-18 書簡 1930年11月28日Caboul 差出人 (Jean?) Gaire 4 ページ (手書き, Légation de France en Afghanistan 便箋)
- G-19 書簡 1931年1月30日Caboul 差出人 (Jean?) Gaire 4 ページ (手書き, Légation de France en Afghanistan 便箋)
- G-20 書簡 1932年1月3日Caboul 差出人 (Jean?) Gaire 4 ページ (手書き, Légation de France en Afghanistan 便箋)
- G-21 書簡 1932年4月16日Hanoï 差出人 Victor Goloubew 3 ページ (手書き)
- G-22 書簡 1932年6月19日Hanoï 差出人 Victor Goloubew 2 ページ (手書き)
- G-23 書簡 1932年5月5日 差出人 Émile Gaspardone 1 ページ (手書き, Institut franco-japonais du Kansai 便箋)
- G-24 書簡 1932年6月24日Kyôto 差出人 Émile Gaspardone 1 ページ (手書き, Kyoto

Hotel 便箋)

- G-25 書簡 1932年7月17日Kyôto 差出人 Émile Gaspardone 1 ページ (手書き)
- G-26 書簡 1932年7月21日 差出人 Émile Gaspardone 1 ページ (手書き)
- G-27 書簡 1932年5月26日 差出人 Grüber 2 ページ (手書き, Messageries Martimes 便箋)
- G-28 書簡 1932年7月18日 宛先 Paul Gaultier 5 ページ (タイプ打ち)
- G-29 書簡 (1932?) 年5月15日 差出人 Paul Genthner 3 ページ (タイプ打ち)
- G-30 書簡 1932年3月3日 差出人 Robert Gérard 4 ページ (手書き)
- G-31 書簡 1932年5月10日Paris 差出人 Gaudry(?), Goerger 2 ページ (タイプ打ち, Goerger の手書き部分あり, Expédition-Citroën Centre-Asie 便箋)
- G-32 書簡 1932年6月23日 差出人 Goerger 4 ページ (タイプ打ち, Expédition-Citroën en Centre-Asie 便箋)
- G-33 書簡 1932年5月10日 宛先 Goerger 2 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋)
- G-34 書簡 1932年6月18日Kyôto 差出人 Henri Garnier 3 ページ (手書き)
- G-35 資料 (領収書) 1932年4月25日 Garage Central 2 ページ (タイプ打ち)
- G-36 書簡 1932年5月30日Tientsin 差出人 Garage Central 1 ページ (手書き)
- G-37 書簡 1932年6月17日 宛先 Garage Central 1 ページ (タイプ打ち)
- G-38 書簡 1932年6月8日Kyoto 差出人 Gorchand 1 ページ (タイプ打ち, Institut franco-japonais du Kansai 便箋)
- G-39 書簡 1932年5月5日 宛先 Gouverneur Général 2 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋)
- G-40 書簡 1932年3月28日Boulogne 差出人 Ch.-M. Garnier 3 ページ (手書き1ページ, タイプ打ち2ページ, Autour du Monde 便箋)

HJL

- HJL-1 書簡 日付不明 New Delhi 差出人 (Sir Evelyn Berkeley?) Howell 2 ページ (手書き, 英語)
- HJL-2 書簡 1931年12月26日Tokyo 差出人 (Moïse Charles) Haguenauer 3 ページ (タイプ打ち)
- HJL-3 書簡 ?年6月1日 差出人 羽田亨 1 ページ (手書き, 日本語縦書き)
- HJL-4 書簡 日付不明 差出人 (Alexandre) Jacovleff 2 ページ (手書き)
- HJL-5 電報 1932年5月7日 差出人 Jousset 1 ページ
- HJL-6 書簡 1931年11月10日 差出人 Lê Van Hô 2 ページ (タイプ打ち, 法寶義林につ

いて)

- HJL-7 書簡 1930年9月13日 差出人 Jean Lartigue 4 ページ (手書き)
- HJL-8 書簡 日付不明 差出人 Lauer [Tissus Lauer?] 2 ページ (手書き)
- HJL-9 書簡 1932年7月8日Tokio 宛先 Leroux(?) 2 ページ (手書き, 日仏会館縦書き便箋)
- HJL-10 資料 日付不明 Librairie Stock « Pourquoi les oiseaux chantent, Jacques Delamain 他 » (手書き, 書名リスト)
- HJL-11 書簡 1930年9月18日 差出人 Sylvain Lévy 4 ページ (手書き)
- HJL-12 ハガキ 1930年10月1日 差出人 Sylvain Lévy 1 ページ (手書き)
- HJL-13 書簡 1931年1月4日 差出人 Sylvain Lévy 2 ページ (手書き)
- HJL-14 書簡 1931年1月29日 差出人 Sylvain Lévy 4 ページ (手書き)
- HJL-15 書簡 1931年9月18日 差出人 Sylvain Lévy 4 ページ (手書き)
- HJL-16 書簡 1932年2月28日 差出人 Sylvain Lévy 2 ページ (手書き)
- HJL-17 書簡 1932年4月28日Paris 差出人 Sylvain Lévy 4 ページ (手書き)
- HJL-18 書簡 1932年5月18日Paris 宛先 Sylvain Lévy 2 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋)
- HJL-19 書簡 1932年7月11日 宛先 (André) Lemée 3 ページ (手書き, 日仏会館縦書き便箋)
- HJL-20 書簡 1930年5月24日Dahlem 差出人 Elinor Van Le Coq 1 ページ (印刷, Albert Von Le Coq の訃報)
- HJL-17 書簡 1931年2月5日Paris 差出人 Ch. Lorin 6 ページ (手書き)

M

- M-1 書簡 1930年8月21日 差出人 Jean Marx 2 ページ (タイプ打ち, フランス外務省便箋)
- M-2 書簡 1930年10月17日 差出人 Jean Marx 2 ページ (タイプ打ち, フランス外務省便箋)
- M-3 書簡 1931年1月13日Paris 差出人 Jean Marx 4 ページ (タイプ打ち, フランス外務省便箋)
- M-4 書簡 1932年4月25日Paris 差出人 Jean Marx 3 ページ (タイプ打ち, フランス外務省便箋)
- M-5 書簡 1932年1月19日Paris 差出人 Jean Marx 3 ページ (タイプ打ち, フランス外務省便箋)

- M-6 書簡 1932年6月21日 差出人 Jean Marx 2 ページ (タイプ打ち, フランス外務省
小型便箋)
- M-7 資料 (公文書) 日付不明 (1931/1932?) 差出人 Mohammed Hashim Khan 1 ページ
(手書き, ペルシア語)
- M-8 書簡 1930年10月9日 差出人 (Sir Richard Roy?) Maconachie 1 ページ (手書き,
英語)
- M-9 資料 (請求書) 1932年3月8日 Herb. Mueller 1 ページ (タイプ打ち, 美術品・
考古資料の売買明細)
- M-10 書簡 1932年7月1日 差出人 Martel 1 ページ (手書き, 在日仏大使館小型便箋)
- M-11 書簡 1932年7月21日 差出人 Martel 1 ページ (手書き, 在日仏大使館小型便箋)
- M-12 書簡 1932年4月22日 差出人 Marchand 1 ページ (手書き, Institut franco-jponais
du kansai 便箋)
- M-13 書簡 1932年5月1日 差出人 Marchand 2 ページ (手書き, Institut franco-jponais
du kansai 便箋)
- M-14 書簡 1932年4月25日 宛先 Marchand(?) 1 ページ (手書き, Maison Franco-
Japonaise Tokyo 便箋)
- M-15 書簡 1932年5月2日 宛先 Marchand(?) 2 ページ (手書き, Maison Franco-
Japonaise Tokyo 便箋)

OPR

- OPR-1 書簡 1930年4月15日 差出人 Paul Pelliot 4 ページ (手書き)
- OPR-2 書簡 1931年2月12日 Paris 差出人 Paul Pelliot 2 ページ (手書き)
- OPR-3 書簡 1930年6月21日 Paris 差出人 Paul Pelliot 4 ページ (手書き)
- OPR-4 書簡 1931年9月20日 Paris 差出人 Paul Pelliot 4 ページ (手書き)
- OPR-5 書簡 1932年4月3日 Paris 差出人 de Porhout(?) 4 ページ (手書き)
- OPR-6 書簡 1932年 Pâques 差出人 Philipon 4 ページ (手書き)
- OPR-7 書簡 1931年4月24日 Paris 差出人 Nedelcovic(?) 4 ページ (手書き)
- OPR-8 書簡 1932年6月11日 差出人 Suzanne Noël 3 ページ (手書き, Canadian Pacific
S.S. Empress of Canada 便箋)
- OPR-9 資料 (講演案内) 1932年6月7日 Suzanne Noël の日仏会館での講演の案内
- OPR-10 書簡 1932(?)年5月31日 差出人 Victor Point 4 ページ (手書き, Expédition
Citroën Centre-Asie 便箋)
- OPR-11 書簡 1932年5月23日 宛先 Victor Point 1 ページ (手書き, Maison Franco-

Japonaise Tokyo 小型便箋)

- OPR-12 書簡 1932年6月19日 宛先 Victor Point 5 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo 小型便箋)
- OPR-13 書簡 1932年6月22日Tokyo 宛先 Victor Point 2 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋)
- OPR-14 書簡 1931年8月26日 差出人 Henri Pecqueur 2 ページ (手書き)
- OPR-15 書簡 1932年4月5日 差出人 Henri Pecqueur 6 ページ (手書き, Messageries Maritimes 便箋, Felix Roussel 号から)
- OPR-16 書簡 1931年2月10日 差出人 Pierre Pascal 2 ページ (手書き)
- OPR-17 書簡 1932年2月6日 差出人 Francis Ruellan 2 ページ (タイプ打ち)
- OPR-18 書簡 1931年2月6日 宛先フランス外務大臣 差出人 Francis Ruellan 2 ページ (タイプ打ち, OPR-17に同封されていた手紙の写し)
- OPR-19 書簡 1932年3月2日 差出人 Friedrich Perzyński 1 ページ (タイプ打ち, ドイツ語)
- OPR-20 書簡 1932年3月6日 差出人 Friedrich Perzyński 1 ページ (タイプ打ち, ドイツ語)
- OPR-21 書簡 1932年6月8日 差出人 Franklin Fisher 1 ページ (タイプ打ち, National Geographic Society)

S

- S-1 資料 (公文書) 日付不明 Shah Mahmoud 1 ページ (手書き, ペルシャ語)
- S-2 書簡 1932年5月10日Pékin 差出人 Alexander von Staël-Holstein 1 ページ (手書き)
- S-3 書簡 日付不明 差出人 Sat Lal Koul 2 ページ (手書き, 英語)
- S-4 資料 (推薦状) 1929年6月29日 S. P. College 1 ページ (タイプ打ち, Sat Lal Koul に関する紹介状)
- S-5 資料 (推薦状) 1930年3月7日 Canning College 1 ページ (タイプ打ち, Sat Lal Koul に関する紹介状)
- S-6 資料 (推薦状) 1930年9月10日 Jammu and Kashmir Boy Scouts Association 1 ページ (タイプ打ち, Sat Lal Koul に関する紹介状)
- S-7 書簡 1930年9月6日Rome 差出人 (Enrica di ?) San Martino 6 ページ (手書き)
- S-8 書簡 (1931 ?) 年9月6日Rome 差出人 (Enrica di ?) San Martino 2 ページ (手書き)
- S-9 書簡 1931年11月7日 差出人 (Enrica di ?) San Martino 3 ページ (手書き)

ジョゼフ・アッカンの未刊行書簡

- S-10 書簡 1932年 5月22日 差出人 (Enrica di?) San Martino 4 ページ (手書き)
- S-11 書簡 (?)年10月23日 差出人 (Enrica di?) San Martino 2 ページ (手書き)
- S-12 資料 (学術誌の書誌情報) Istituto (R.) Lombardo di scienze et lettere, 他 2 冊 1 ページ (タイプ打ち, San Martino の書簡に同封か?)
- S-13 書簡 1930年 8月21日 差出人 Philippe Stern 6 ページ (タイプ打ち)
- S-14 書簡 1931年 3月24日 Paris 差出人 Philippe Stern 3 ページ (タイプ打ち, Musée Guimet 便箋)
- S-15 書簡 1932年 7月 6日 Tokyo 宛先 Philippe Stern 2 ページ (タイプ打ち, Maison Franco-Japonaise Tokyo 便箋)
- S-16 書簡 1932年 7月 6日 Tokyo 宛先 Philippe Stern 4 ページ (手書き, 日仏会館縦書き便箋, S-15の下書き)
- S-17 書簡 1931年11月26日 Srinagar 差出人 Shridar Raina 5 ページ (タイプ打ち, 英語)
- S-18 書簡 1932年 3月 3日 差出人 William Sivel 2 ページ (手書き, Dairen Kisen Kaisha 便箋, Kahoku maru から)
- S-19 書簡 1932年 5月 2日 Tokio 宛先 René Grousset 差出人 J. Shimomura (Directeur des Cultes au Ministère de l'Instruction Publique du Japon) 1 ページ (タイプ打ち, フランス語)
- S-20 書簡 1932年 6月 1日 在日英国大使館 差出人 (Sir George Bailey) Sansom 1 ページ (手書き, 英語)

TUVWY

- TUVWY-1 書簡 1931年 2月 6日 Numaz (u?) 差出人 Takakusu [高楠順次郎] 3 ページ (手書き, 英語)
- TUVWY-2 書簡 1932年 6月10日 差出人 Takakusu [高楠順次郎] 1 ページ (手書き, 英語)
- TUVWY-3 書簡 1932年 4月14日 差出人 Tomii [富井政章] 2 ページ (手書き, フランス語)
- TUVWY-4 書簡 1932年 5月27日 Tokio 差出人 Tomii [富井政章] 2 ページ (手書き, フランス語)
- TUVWY-5 資料 (封筒) 1932年 4月14日 差出人 Tomii [富井政章] 1 ページ (手書き, TUVWY-3の書簡が入っていたと思われる)
- TUVWY-6 書簡 1932年 6月12日 差出人 Teilhard de Chardin 4 ページ (手書き, The National geological survey of China 便箋)

- TUVWY-7 書簡 1932年 6 月20日 宛先 Teilhard de Chardin 3 ページ (手書き, Maison Franco-Japonaise Tokyo の小型便箋, TUVWY-6に対する返信の下書きか)
- TUVWY-8 書簡 ? 年11月 7 日 差出人 梅原末治 2 ページ (手書き, 日本語, 縦書き)
- TUVWY-9 資料 (請求書) 1932年 3 月12日 THE FRENCH BOOKSTORE 1 ページ
- TUVWY-10 資料 (請求書) 1932年 3 月12日 THE FRENCH BOOKSTORE 1 ページ
(TUVWY-9 とは別フォーマット, 購入書籍 8 冊の明細, TUVWY-9 の請求書)
- TUVWY-11 書簡 1930年 1 月 3 日 差出人 G. Van Oest 4 ページ (手書き)
- TUVWY-12 書簡 1930年 9 月14日 差出人 G. Van Oest 2 ページ (手書き, Les éditions Van Oest 便箋)
- TUVWY-13 資料 1932年 2 月20日 G. Van Oest 4 ページ (書名リスト, TUVWY-14に同封か)
- TUVWY-14 書簡 1932年 4 月20日 差出人 G. Van Oest 2 ページ (手書き, Les éditions Van Oest 便箋)
- TUVWY-15 書簡 1932年 5 月25日 差出人 G. Van Oest 4 ページ (手書き)
- TUVWY-16 書簡 1932年 6 月21日 差出人 G. Van Oest 6 ページ (手書き, Les éditions Van Oest 便箋)
- TUVWY-17 書簡 1932年10月27日 差出人 G. Van Oest 2 ページ (手書き, Les éditions Van Oest 便箋)
- TUVWY-18 書簡 1932年 3 月14日 Kyoto 差出人 Mas Viollis(?) 2 ページ (手書き, MIYAKO HOTEL 便箋)
- TUVWY-19 書簡 1930年10月23日 差出人 Vijaya Laksh Pandit 2 ページ (手書き, 英語, インドの著名な独立運動家, 初代首相ネルーの妹)
- TUVWY-20 書簡 1930年 1 月11日 差出人 Vignier 4 ページ (手書き)
- TUVWY-21 書簡 1930年 8 月21日 差出人 Vignier 2 ページ (手書き)
- TUVWY-22 書簡 1930年11月24日 Tokyo 宛先 Vignier? 2 ページ (手書き)
- TUVWY-23 書簡 1932年 5 月 7 日 差出人 Van Dijk(?) 2 ページ (手書き, Croisière Jaune 関連)
- TUVWY-24 書簡 1932年 5 月17日 差出人 Volpart 1 ページ (手書き, ドイツ語, Croisière Jaune 関連)
- TUVWY-25 書簡 1932年 2 月28日 差出人 Williams 2 ページ (タイプ打ち, 英語, Croisière Jaune 関連)
- TUVWY-26 書簡 1932年 2 月29日 差出人 Williams 2 ページ (手書き, 英語, Croisière Jaune 関連)

- TUVWY-27 書簡 1931年 9月15日 差出人 David-WEILL 2 ページ (タイプ打ち)
TUVWY-28 書簡 1932年 5月24日 差出人 David-WEILL 2 ページ (タイプ打ち)
TUVWY-29 書簡 1932年 5月 6日 差出人 De Wilde(?) 2 ページ (タイプ打ち)
TUVWY-30 書簡 1932年 7月 5日 Kugenuma 差出人 Y. Yamada 2 ページ (手書き)
TUVWY-31 書簡 ?年 6月17日 Kioto 差出人 Susumu Yamaguchi [山口益] 3 ページ
(手書き, フランス語)
TUVWY-32 書簡 1932年 5月22日 Kioto 差出人 Susumu Yamaguchi [山口益] 1 ページ
(手書き, フランス語)

3. 書簡・資料から浮かび上がる人物たち

このようにギメ東洋美術館が所蔵している日仏会館館長時代のアッカンの書簡・資料をリスト化してみると、ペリオやレヴィなどのフランス人考古学者や東洋学者、フランス外務省や在日フランス大使館などの公的領域だけでなく、私的領域にもわたるさまざまな関係が浮き彫りになる。第一のカテゴリーは当時日本に滞在していた、もしくは日本での滞在を終えた多くのフランス人学術・教育関係者らとの交流である。例えば東京の日仏会館関係者だが、上述した日仏会館初代館長のレヴィはもちろんのこと、28-29年に日仏会館の第二代館長を務めたルイ・ブラランゲム Louis Blaringhem との書簡が確認できる。ブラランゲムはフランスの農学者、植物学者で、日本滞在後の30年から49年までソルボンヌ大学教授を務めた。同様に、元東京帝国大学文学部の講師で、東京のアテネ・フランセの創業者であるジョセフ・コット Joseph Cotte の書簡も確認できる。東京だけでなく、27年に京都山科の九条山に開館した関西日仏学館の初期のフランス人の館長ら¹⁰⁾の書簡も確認できる。初代館長に就任したフランシス・リュエラン Francis Ruellan は、1926年に日仏会館の研究員として来日した地理学者だし、ジョルジュ・ボノー Georges Bonneau は関西日仏学館の第二代館長を31年1月から32年3月まで務めている。ボノーは28歳の若さでソルボンヌ大学で博士号を授与された研究者だったが、日本に招聘され26年から29年までは九州帝国大学で、30年から32年まで京都帝国大学で教壇に立っている。ボノーの書簡は比較的数量が多く、リストにある二通の電報は東京への到着をわざわざアッカンに知らせる内容で、特に懇意な関係だったことがうかがえる。ルイ・マルシャン Louis Marchand は関西日仏学館の第三代の館長を32年から務めている。他にも32年まで日仏会館の研究員を務めたシャルル・アグノエル Charles Haguenaue や関西日仏学館を訪問し京都滞在中だったエミール・ガスバルドン Émile Gaspardone の書簡も確認できる。とりわけリュエラン、ボノー、マルシャンらはいずれもアッカンと同時期に日本に滞在していた人物たちであり、彼らと交わした書簡は、今後より

詳細に精査することで第二次世界大戦前の日仏会館や関西日仏学館の歴史を新たに繙く可能性を示唆するとともに、日本でのアッカンの足跡や交流を複数の領域にわたって新たに解き明かす可能性を秘めている。

本資料群から浮かび上がる第二のカテゴリーは、ジョゼフ・アッカンと当時の日本人との関係だろう。とりわけ注目されるのは、日仏会館に関係する日本人との交流である。その一例として古市公威が挙げられる。帝国大学工科大学の初代学長の古市は、フランスのグランゼコールのひとつであるエコール・サントラルを1879年に卒業し、翌1880年にはパリ大学理学部を卒業している。その後、1886年に帝国大学工科大学（現・東京大学工学部）の初代学長に就任した。晩年には日仏会館理事を務め、1934年1月に没していることから、アッカンとの交流は古市の最晩年におけるものであったと位置づけられる。富井政章もまた重要な人物だろう。富井は帝国大学法科大学教授を務め、のちに同大学の総長に就任したほか、立命館大学初代学長としても知られる。1934年には日仏会館理事に就任し、翌1935年に76歳で没している。古市同様、アッカンとの関係は富井にとっても最晩年に位置づけられる。富井はリヨン大学に留学経験を有しており、フランス語で書かれた書簡の内容から判断しても、その語学能力は高水準に達していたと考えられる。こうした点は、近代日本の制度形成を担った知識人層の特質として注目に値すると言えよう。次に、日本人学術関係者、特に京都を拠点とする研究者との関係が明らかとなる。羽田亨は、ポール・ペリオが敦煌から持ち帰った文書群を調査・紹介した京都帝国大学の東洋史研究者であり、のちに同大学総長を務めた人物である。羽田がペリオを介してアッカンと知遇を得た可能性は十分に考えられる。また、梅原末治は京都帝国大学文学部において考古学講座教授を務めた研究者であり、リスト中の書簡は、彼が講師から助教授へ昇格する時期に相当する。梅原は書簡の中で、同大学の同僚であった羽田に言及するとともに、Croisière Jaune から帰還したアッカンを日仏会館に訪問する意向を記している。さらに、山口益は仏教学者であり、のちに大谷大学教授および学長を務めた。山口は1927年から29年にかけてフランスに留学し、シルヴァン・レヴィの指導を受けていることから、レヴィを仲介としてアッカンとの関係が形成された可能性が指摘される。他にも『法寶義林』の高楠順次郎の書簡も確認できる。

さらにもうひとつのカテゴリーは、Croisière Jaune に参加したメンバーである。ベイルートから東進したパミール班では、オードゥアン＝ドゥブルイユ Audouin-Dubreuil, ジョルジュ・ルフェーヴル Georges Le Fèvre, アンリ・ペクール Henri Pecqueur, アメリカ人メイナード・ウィリアムズ Maynard O. Williams, そしてウィリアム・シヴェル William Sivel である。天津から西進した中国班ではヴィクトール・ポワン Victor Point, ピエール・テイヤー＝ド＝シャルダン Pierre Teihard de Chardin, ロベール・デラストル Dr. Robert Delastre である。特にポワンとの関係でいえば、ポワン自身交際していた女優とフランス帰国後の32年

8月にピストル自殺を遂げるが、ポワンの自殺の直前までアッカンと書簡を交わしていたことがわかる。Croisière Jauneの参加メンバーと交わした書簡については稿を改めて詳細を論じることにした。

4. 結びにかえて

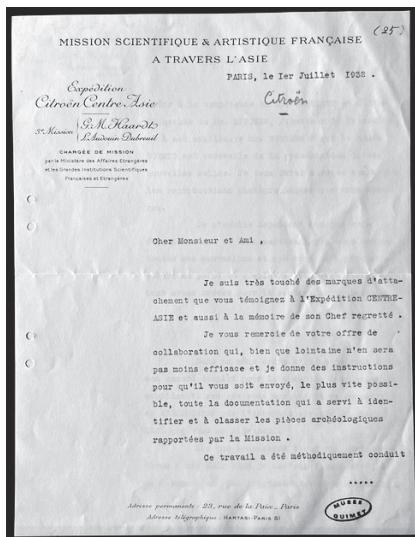
本稿では、2025年夏にギメ東洋美術館図書室において実施した調査に基づき、ジョゼフ・アッカンが日本滞在中に交わした書簡および関連資料を分類・リスト化し、そこから明らかとなる彼の日本における足跡および交流関係について考察を行った。

これまでに検討してきたように、これらの資料から浮かび上がるのは、同時期におけるアッカンの公私にわたる多様な人的関係であり、さらにそれらを通して彼の日本における活動の実態が明らかとなる。彼の活動は考古学者としての学術的な側面にとどまるのではなく、日仏会館館長としての職務、さらにはCroisière Jaune参加者としての役割など、多岐にわたっていたことが確認される。また以上に挙げた活動に加え、本論では書簡のすべての人物に言及することはできなかったが、例えばヴィジャヤ・ラクシュミ・バンディットとの書簡に見られるように、その交友関係および活動領域は極めて広範に及んでいたことが推測される。

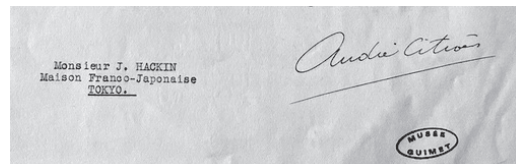
本稿では、今回閲覧し得た書簡および関連資料について、主として分類およびリスト化を

行うにとどまった。今後の課題としては、これら個々の資料内容の精査を進める必要がある。とりわけ、Croisière Jauneに関連する資料の検証は本研究において不可欠であり、この点については別稿においてあらためて詳細な検討を加える予定である。

最後に、二年間に渡りフランス国立図書館およびギメ東洋美術館で共同で研究調査を行ったコランタン・ピーターズ先生、わたしたちの研



アッカン宛アンドレ・シトロエンの書簡



アンドレ・シトロエン直筆の署名

究調査に理解を示し資料の閲覧を快諾してくださったギメ東洋美術館図書室長カメルロッティ氏に深く感謝を申し上げる。

注

- 1) 倉方健作「『ふらんす』100年」『ふらんす』白水社 2025年9月号 p. 14.
- 2) 『ふらんす』白水社 1931年3月号 p. 34.
- 3) 『法寶義林』は後述のシルヴァン・レヴィ、日本の仏教学者高楠順次郎とともに1926年から編纂が始まった。Cf. 藤原貞朗『オリエンタリストの憂鬱』めこん 2008 p. 421; ユベール・デュルト「法寶義林60年の歩み」『日仏文化』N° 49 1987 pp. 57-60.
- 4) Cf. 藤原貞朗「パリのオリエンタリスト(1)——ジョゼフ・アッカ」『オリエンタリストの憂鬱』pp. 189-192; 松平美和子「仏考古学者ジョゼフ・アッカと極東」駒澤大学『文化』33号 2015 pp. 39-63; 前田耕作「アフガニスタン考古学の歩み」『西アジア考古学』6号 2005 pp. 41-48.
- 5) 藤原貞朗「オリエンタリストの日仏交流——大戦間期および戦時下の日仏交流の逆説」『日仏文化』N° 79 2011 pp. 75-76.
- 6) 松平 2015 p. 43.
- 7) デュルト 1987 p. 60.
- 8) 松平 2015 p. 43.
- 9) ピーター・コランタン「中央アジア自動車探検に関する未刊行資料とアンドレ・ソヴァージュ作品をめぐる研究の展望」『シトロエン中央アジア自動車探検の検証と学術的利用』愛知大学人文社会学研究所 2026年3月 pp. 39-44.
- 10) Cf. 藤野志織「関西日仏学館と女性たち」京都大学人文科学研究所『人文学報』117号 2021 pp. 107-121; 「資料紹介 関西日仏学館（京都）に関する資料」『人文学報』122号 2024 pp. 699-733.